

第 2 表 一般構造用圧延鋼材 JIS G 3101 (1952)

種 別	記 号	化 学 成 分 %				
		平炉または電気炉による場合		転炉による場合		
		P	S	P	S	
一般構造用 圧延鋼材	第 1 種	SS 34	0.060 以下	0.060 以下	0.080 以下	0.060 以下
	第 2 種	SS 41				
	第 3 種	SS 50				
	第 4 種	SS 39	0.070 以下	0.070 以下	0.100 以下	0.070 以下
	第 5 種	SS 49				

種 別	記 号	引 張 試 験				曲 げ 試 験		
		引張強さ kg/mm ²	降伏点 kg/mm ²	試験片	伸 び %	曲 げ 角 度	内 側 半 径	
鋼 板 平 形	第 1 種	SS 34	34~41	—	1 号	厚さ 9mm 以上 25 以上 厚さ 9mm 未満 21 以上	180°	密 着
	第 2 種	SS 41	41~50	23 以上	1 号	厚さ 9mm 以上 20 以上 厚さ 9mm 未満 17 以上		厚 さ の 1.5 倍
	第 3 種	SS 50	50~60	28 以上	1 号	厚さ 9mm 以上 18 以上 厚さ 9mm 未満 15 以上		厚 さ の 2.0 倍
棒 鋼	第 1 種	SS 34	34~41	—	2 号 3 号	25 以上 30 以上		密 着
	第 2 種	SS 41	41~50	23 以上	2 号 3 号	20 以上 24 以上		径・辺または対辺距離の 1.5倍
	第 3 種	SS 50	50~60	28 以上	2 号 3 号	18 以上 21 以上		径・辺または対辺距離の 2.0倍
	第 4 種	SS 39	39~53	24 以上	2 号 3 号	20 以上 24 以上	径・辺または対辺距離の 1.5倍	
	第 5 種	SS 49	49~63	30 以上	2 号 3 号	16 以上 20 以上	径・辺または対辺距離の 2.0倍	

- 備考 1 降伏点は JIS Z 2241 (金属材料引張試験方法) の定めによる。
 2 鋼板・平鋼・形鋼および棒鋼を表わすときの記号は表記記号のつぎに P(鋼板)・F(平鋼)・A(形鋼) または B(棒鋼) をしるす。
 例 一般構造用圧延鋼材鋼板第 1 種は SS 34 P とする。
 3 曲げ試験において第 3 種はとくに注文者の指定のある場合にかぎり行う。
 4 しま鋼板 (これに類するものを含む) およびつぎに示す鋼材には引張試験を行わない。

鋼 板	厚さ 5mm 未満のもの
平 鋼 ・ 形 鋼	厚さ 6mm 未満のもの
棒 鋼	径・辺または対辺距離 8mm 未満のもの

(注) 寸法および重量の許容差の規格は省略。